



# clinical summer meeting 2024

北海道医療大学歯学部同窓会北海道支部連合会主催  
クリニカルサマーミーティング2024

7/6 (sat)

- 15:00~16:30 薬剤に関する講習会
- 17:00~19:00 特別講演会

📍北海道医療大学サテライトキャンパス 札幌市中央区北4条西5丁目アスティ45 12階

# 北海道医療大学歯学部同窓会北海道支部連合会主催 クリニカルサマーミーティング 2024

2年に一度、北海道支部連合会では同窓内のクローズな学術講演会として開催しています。コロナ感染症も昨年5類に移行いたしました。このクリニカルサマーミーティングは同窓生だけのアットホームな講演会ですので、気軽に会場へお越しください。遠方の先生、会場に来ることの出来ない方はZoomでの参加も歓迎いたします。

特別講演会では小児歯科のエキスパートである浜野美幸先生を東京からお招きいたします。また临床上のいろいろな場面で何を投薬すれば良いのか迷われる先生も多いとお聞きします。そこで色々な立場から「薬剤に関する講演会」も合わせて開催します。

本会では今後も会員の皆様に有益な事業を開催して参りますので、是非ご参加下さいますようお願い申し上げます。

会長 佐藤明理

## ◇特別講演会◇ (午後5時～7時)

千葉歯科医院 院長 浜野美幸先生

座長：倉重圭史先生 (20期)



### ■ 特別講演

## 「口腔機能発達不全症」のアプローチ —明日から取り組むために—

「口腔の健康」が健康長寿に欠かせないことがわかっています。しかし、実際には、高齢期は“口腔機能低下症”、小児期では“口腔機能発達不全症”と病名が新設されたように、口腔機能の問題が大きくなっています。“口腔機能発達不全症”は、具体的には「食べるのが遅い」、「咬まずに丸のみしている」「口をあけたままにしている」「舌足らずの赤ちゃん言葉」など、食事・構音・呼吸の問題ですが、主訴にならないので取り組むきっかけが難しく、対応がよくわからないという声も多く、現状はあまり取り組みが進んでいません。

そこで本セミナーでは、明日から臨床で取り組めるように、治療の必要性の説明から、診察のポイント、対応の実際までを事例を交えて解説します。

子どもの口腔機能の育成に取り組むことは、子育ての悩みを解決し、親子の生活支援になり、将来のオーラルフレイルの予防につながります。何より子どもたちの笑顔と成長発達の変化にやりがいを感じていただけたと思います。

#### 略歴

1986年 東京歯科大学卒業  
1990年 東京歯科大学大学院  
(小児歯科) 修了  
病院勤務を経て  
2003年 千葉歯科医院 院長  
現在に至る

#### その他

日本小児歯科学会  
小児歯科専門医指導医  
東京歯科大学小児歯科学講座  
非常勤講師  
昭和大学歯学部 客員講師  
日本小児歯科学会 常務理事  
(小児保健担当)  
全国小児歯科開業医会 理事  
日本小児歯科学会関東地方会 会長

# ☆今さら聞けない！今だから聞きたい！講演会（薬剤編）☆ ～歯科治療における投薬の疑問にお答えします！～

（午後3時～午後4時30分）

座長：中尾 友也 先生（26期）

## ■「歯周治療における抗菌薬の使用について」

---

北海道医療大学歯学部 総合教育学系 歯学教育開発学分野  
門 貴司 先生（24期）

歯科医師であれば、誰しも「歯周病は薬で治りませんか」と聞かれたことがあるのではないのでしょうか。歯周病の主な原因は、プラークでありプラーク中の細菌による感染症です。しかしながら、抗菌薬は歯周病の原因除去療法とはなっておりません。今回は、歯周治療において、抗菌薬をどのように扱っていけばよいのか、歯周治療における抗菌療法のガイドラインを基に解説できればと思います。

## ■「小児歯科で注意する薬剤」

---

北海道医療大学歯学部 口腔構造・機能発育学系 小児歯科学分野  
倉重 圭史 先生（20期）

2023年に小児への舌下免疫療法（アレルゲン免疫療法）において、一部の薬剤を服用している小児患者に対して、抜歯をはじめとする出血を伴う歯科治療や、口腔内に強い炎症症状などがあるとアレルギー反応等の副作用がでることが情報提供されました。この様に、医学の進歩に伴い様々な薬剤がでることで、歯科医師自身も薬剤についての情報をアップデートする必要があります。本講演では、小児歯科で注意する薬や薬剤の使用方法についてお話しさせていただきます。

## ■「一般歯科診療における抗菌薬の適正使用」

---

北海道医療大学歯学部 生体機能・病態学系 顎顔面口腔外科学分野  
原田 文也 先生（30期）

一般歯科診療では歯周病や歯髄炎などの歯性感染症を扱う事が多く、感染症に対して処方される抗菌薬は日常的に使用する頻度の高い薬剤の1つとなっています。一方米国では、歯科処置に伴って処方された抗菌薬の80.2%はガイドラインに沿っておらず、不要な処方であったという報告がなされています。抗菌薬の適正使用は、耐性菌の発生を抑制するために必要不可欠な考え方であり、抗菌薬を処方できる医師・歯科医師一人一人が自覚をもって取り組むべき課題でもあります。本講演では歯科領域における抗菌薬使用の考え方や注意点をテーマにまとめました。皆様の診療の一助となれば幸いです。

## ■ 「歯科領域で使用される薬剤の適正使用」

---

株式会社ナカジマ薬局 薬局事業部 地域連携課

佐々木 剛 先生（薬学部同窓）

歯科領域において処方可能な薬剤は制限が存在する為、その種類は多くありません。しかしながら、薬剤によっては特定の条件下において使用することで、十分な効果が発揮することが出来ない場合や、飲み合わせにより味が変化し服用が難しくなる等のケースが存在します。

特に抗生剤においては不適切な使用により、十分な効果が発揮されないだけでなく、耐性菌の発生につながる場合があります、1993年に悪夢の細菌と呼ばれる、カルバペネム耐性菌が発見されるに至りました。

本日の内容が皆様の安全な薬物治療を行うための手助けになってくだされば幸いです。

広報誌「WAVE」にいつも協賛いただいている企業様です

相田化学工業株式会社 札幌営業所

アサヒプリテック株式会社

株式会社石田歯科商会

株式会社キサツアルファ

株式会社札幌デンタル・ラボラトリー

株式会社ノーザ

株式会社モリタ

国際興業株式会社

税理士法人池協会計事務所

北海道歯科医師協同組合

メディア株式会社 札幌営業所

横浜金属商事株式会社

五十音順・敬称略